



南伊豆町 水道事業ビジョン

南伊豆町
平成29年3月

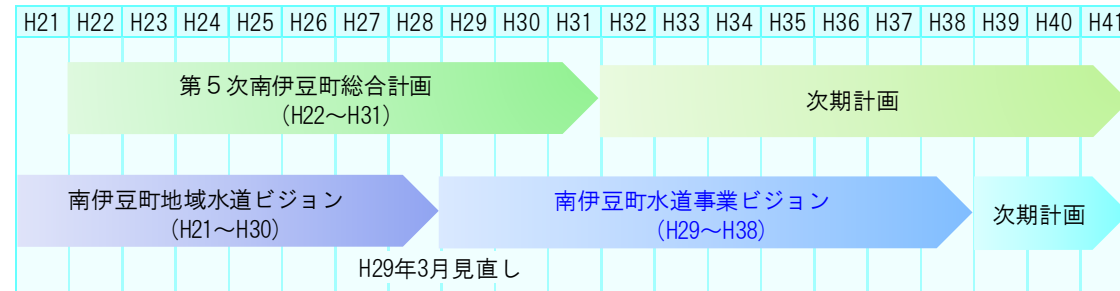
水道事業ビジョン策定の目的と位置づけ

「南伊豆町水道事業ビジョン」では、50年、100年先の水道の理想像を踏まえたうえで、「安全」・「強靱」・「持続」の観点から、今後の水道事業の進むべき道を示します。

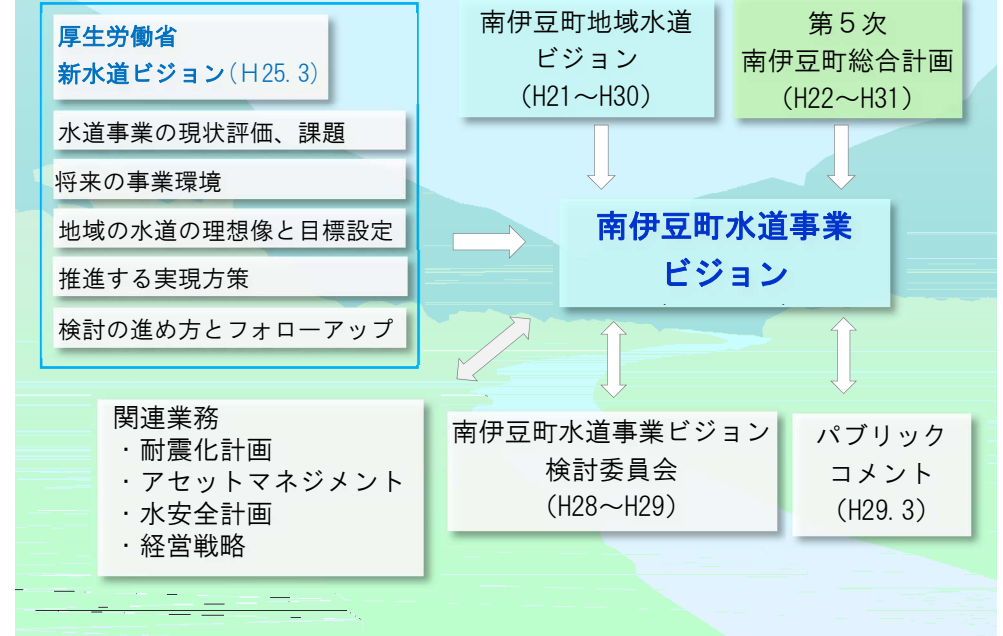
また、「南伊豆町地域水道ビジョン」（平成21年度～平成30年度）の内容を見直し、上位計画である「第5次南伊豆町総合計画（平成22年度～平成31年度）」のもと「快適な生活環境の充実」「水の安定供給」の実現を目指し、これらを踏まえた長期的な方向性と具体的な施策を示すものとします。

計画の期間

本ビジョンの計画期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とします。ただし、必要に応じて見直しを行います。



南伊豆町水道事業ビジョンの位置づけ



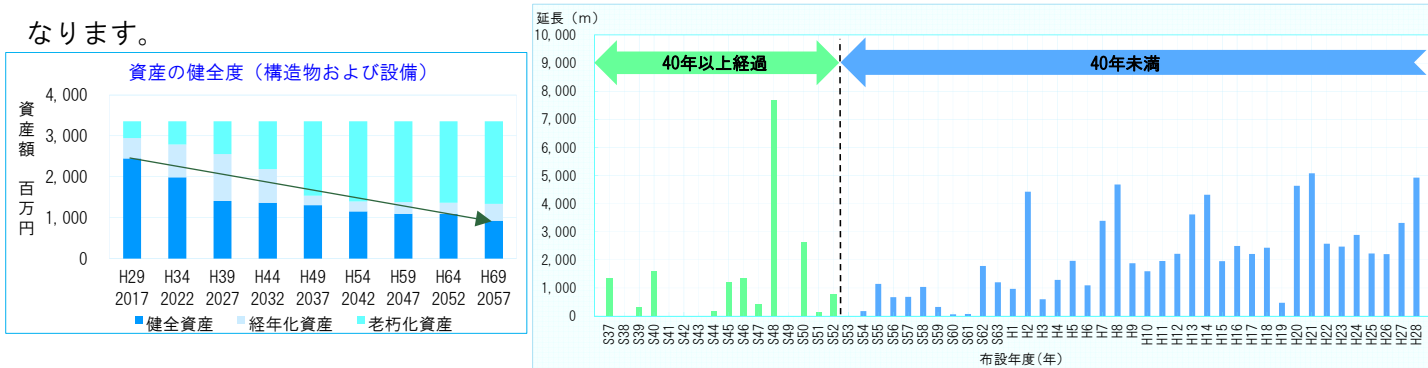
南伊豆町の水道事業の現状と課題

人口の減少による使用水量の減少

本町の給水人口は減少傾向です。給水収益は有収水量の減少に伴い減少傾向にありましたが、平成25年度より3カ年で水道料金の改定を行い、給水収益の確保を図りました。今後も安定した経営を持続していくためには、適正な水道料金水準についても慎重に検討していく必要があります。

既存施設の老朽化

本町においても全国の水道事業と同様に施設の老朽化が進行しています。今後、計画的な施設の更新が必要となります。



巨大地震等自然災害への備えと管路漏水の解消

構造物や建築物については、緊急度の高いものから順次、耐震補強工事や耐震基準を満たす施設への更新を行い、耐震性を確保していく必要があります。

管路については、地震に対して最も脆い石綿セメント管の布設替えを優先的に行ってきましたが、これからは耐震性の確保と漏水の解消を図るため、40年以上経過した管路の布設替えを順次行っていく必要があります。

職員の不足と維持管理体制の強化

本町の水道事業は、生活環境課水道係にて管理、運営を行っていますが、今後、多くの更新工事等を行っていくには十分な職員数とは言えない状態であり、次世代への技術継承を行っていくことも、水道事業を運営するうえで大きな課題です。

施設の維持管理については、体制強化のため、平成26年度より外部企業に委託しています。また、平成29年度より遠方監視システムが稼働し、緊急時を含めた維持管理体制が強化されます。

緊急度の高い課題を抱える施設について

水源・浄水設備

| 給水区 | 水源名 | 種類 | 竣工年度 | 施設の課題 (軽微な設備更新は除く) | 対策済事項 |
|------|-----------|-----|------|-----------------------|--------------------------|
| 吉祥二條 | 吉祥第1深井戸水源 | 深井戸 | S48 | 水量不足 | 水源調査中 |
| | 吉祥第2深井戸水源 | 深井戸 | S57 | 水量不足 | |
| 一 條 | 一條高区深井戸水源 | 深井戸 | S48 | 水量不足・水質悪化 | 新設深井戸をさく井済 今後は取水設備を整備 |
| | 一條低区浅井戸水源 | 浅井戸 | S57 | マンガンの除去 | |

浄水場

| 給水区 | 施設名 | 竣工年度 | 施設能力 (m ³ /日) | 浄水方式 | 施設の課題 |
|-----|----------|------|-----------------------------|-----------|-------------|
| 上水道 | 石井浄水場 1系 | S54 | 6,000 | 凝集沈殿・急速ろ過 | 耐震・設備の老朽化対策 |

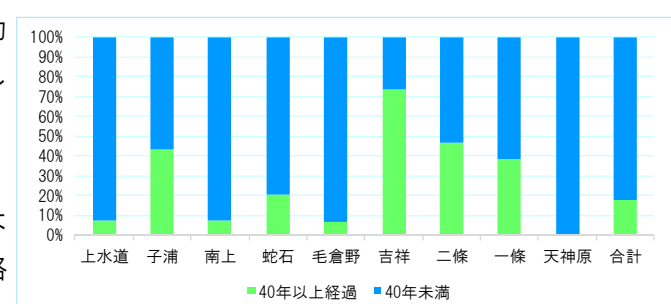
配水池

| 給水区 | 施設名 | 竣工年度 | 容量 (m ³) | 構造 | 施設の課題 |
|------|-----------|------|-------------------------|-----|--------------------------------|
| 毛倉野 | 毛倉第1配水池 | S40 | 23 | RC造 | 事業統合による配水池の統廃合 |
| | 毛倉第2配水池 | S63 | 23 | RC造 | |
| | 旧毛倉野5班配水池 | S39 | 6 | RC造 | |
| 吉祥二條 | 吉祥配水池 | S48 | 80 | RC造 | 調査中の水源からの送水が困難 老朽化対策・耐震性能確保 |
| 一 條 | 一條低区配水池 | S52 | 50 | RC造 | 老朽化対策・耐震性能確保 |

管路

南上地域、蛇石地域、毛倉野地域は、簡易水道の国庫補助制度を活用して管路の布設替えによる耐震化を図ってきましたが、その他の地域については耐震化率が低い状況にあり、これから更新事業を進めていく必要があります。

その他の地域のなかでも、布設後40年以上経過した管路は吉祥地域が最も多く漏水が多発しているため、優先的に管路の更新を行っていく必要があります。



基本理念

うるおいある暮らしを 未来につなぐまちの水道

水道の理想像は、水道を取り巻く時代や環境の変化に対し的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、安心して利用可能であり続けることです。
このような水道を実現するために、本町の実情に応じた水道の基本理念を定めます。

基本目標と目標達成のための実現方策

基本理念を推進するための方針として、厚生労働省が新水道ビジョンに示した、「安全」・「強靱」・「持続」の観点に留意しつつ、50年、100年先を見据えた次の3つの基本目標と、目標達成のための実現方策を定めます。

基本目標 理想像

実現方策

安全

お客様の安心・安全を第一に、安定した水量をいつまでも提供できる水道

- ① 水源の保全と確保
取水量や水質の監視・水源周辺の保全・予備能力の確保
- ② 水安全計画の策定
「水安全計画」の策定・危害の発生防止・危害発生時の迅速な対応
- ③ 水質監視の徹底
水質の監視徹底・安全で清浄な水の確保
- ④ 維持管理体制の構築
維持管理体制の構築（施設の一元管理）・遠方監視システムの導入

強靱

日頃から災害に備え、被災した場合でも最低限の水量を確保し、すみやかに復旧できるたくましい水道

- ① 水道施設の耐震化と老朽施設の更新
計画的な改修や更新・施設の統廃合・ダウンサイジング
- ② 管路の耐震化
計画的な管路更新・更新時の耐震管採用（耐震化）
- ③ 災害時の対応強化
大規模な自然災害への備え・応急給水体制の強化

持続

お客様の満足と信頼を基盤に経営の安定化を図り、持続的な運営を可能とする水道

- ① 経営戦略による経営の健全化
中長期的な財政計画・経営の効率化と健全化・持続可能な事業経営
関連業務：「経営戦略」・「アセットマネジメント（資産管理）」
- ② 有収率の向上と施設効率改善
漏水の防止による施設効率の改善⇒老朽管の布設替えによる有収率の向上
- ③ 給水サービスの改善と顧客満足度向上
お客様ニーズの把握・顧客満足度の向上・おいしい水の提供・品質の向上
- ③ 人材の確保と技術の継承
人材の確保・技術の継承・外部委託範囲の拡大

水道施設位置図（計画）

事業計画



施設更新計画スケジュール（平成29年度～平成38年度）

| 給水区域 | 事業内容 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度 | 平成37年度 | 平成38年度 |
|--------|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 上水道 | 石井浄水場耐震補強工事 石井浄水場設備更新工事（電気設備） 送・配水管布設替工事 | | | | | | | | | | |
| 南上 | 配水管布設替工事 配水池築造工事 | | | | | | | | | | |
| 毛倉野 | 配水管布設替工事 取水施設工事（深井戸第3水源） 浄水施設更新工事（塩素滅菌設備） 配水池築造工事 | | | | | | | | | | |
| 吉祥・二條 | 送・配水設備更新工事 送・配水管布設替工事 取水施設工事 浄水施設更新工事 配水池築造工事 | | | | | | | | | | |
| 一條 | 送・配水設備更新工事 送・配水管布設替工事 取水施設工事 浄水施設更新工事 配水池築造工事 | | | | | | | | | | |
| 遠方監視設備 | 遠方監視設備工事 | | | | | | | | | | |

更新後の施設耐震化率

10年後の浄水場の耐震化率（計画）

| 給水区域 | 施設名 | 施設能力 (m ³ /日) | 今後10年間の耐震化計画 | 平成28年度耐震化率 (2016年度) | 平成38年度耐震化率 (2026年) |
|------|----------|--------------------------|--------------|---------------------|--------------------|
| 上水道 | 石井浄水場 1系 | 6,000 | ○ | 0.0% | 100% |
| | 石井浄水場 2系 | 1,800 | — | 23.1% | 100% |
| | 合計 | 7,800 | | 23.1% | 100% |

10年後の配水池の耐震化率（計画）

| 給水区域 | 水域 | 施設名 | 容量 (m ³) | 今後10年間の耐震化計画 | 平成28年度耐震化率 (2016年度) | 平成38年度耐震化率 (2026年度) |
|-----------|----|-----------------|----------------------|--------------|---------------------|---------------------|
| 毛倉野 | | 毛倉野配水池（更新計画） | 84 | ○ | | |
| 吉祥・二條 | | 吉祥配水池（更新計画） | 245 | ○ | 0.0% | 6.8% |
| 一條 | | 一條高区第2配水池（増設計画） | 32 | ○ | | |
| 全配水池容量の合計 | | | | | | |

10年後の管路の耐震化率（計画）

